

## 中尾隼人作「クリスマスは第一歩」

洋 <small>ひろし</small> （クリスチャン）	小川政弘
同（小学5年）	小川政弘（音声加工）
栄子（その彼女）	野村佳代
隆（小学5年）	畠山裕樹（音声加工）
同（小学3年）	大橋めぐみ（音声加工）
明（小学5年）	中尾隼人（音声加工）
洋の母	大橋めぐみ
隆の母	中橋文
牧師先生	東裕之

ナレーション 僕は洋。20歳の大学2年だ。今年の夏に生まれて初めての彼女が出来た。名前は栄子。同じ大学、同じ学部、同じ年で誕生日まで一緒だ。ちなみに“誕生日が一緒”という事が、けっこう仲良くなるきっかけだったりする。8月の終わり、彼女の誕生日つまり二人の誕生日に告白してから、順調なお付き合いをしてきた。けど、今まで生きてきた中で最大の試練の日がそろそろやってくる。…クリスマスだ。”クリスマスが最大の試練”とは少々オーバーに聞こえそうだが、僕にとってはそうだったのだ。

栄子 そろそろクリスマスだねー、洋君。  
洋 そうだね。  
栄子 最近はクリスマスっぽい事してないなー。去年はバイトだったし。  
洋 そうなんだ。  
栄子 ね、今年はどこか行ってみない？  
洋 どこかって？  
栄子 そりゃあ…駅前のイルミ見てレストランでディナーとか？  
洋 あー、栄子はそういうのが好みか。  
栄子 ここら辺だとそれくらいしかないでしょ！ 車もないし。  
洋 僕んちはあるけど、その日は親も車使うんだよね。  
栄子 それじゃあやっぱり駅前しかないかー。何時に待ち合わせする？  
洋 え？  
栄子 駅前でいいでしょ？  
洋 …あぁいいよ。

栄子                   じゃあお店予約しとくから時間はまた連絡するね。

洋                     あー、うん。

栄子                   楽しみにしてるよー。

洋                     あ、僕も…。

ナレーション       …とは言ったものの、内心「やばい」と思っていた。その日の夜は家族と一緒に教会でイエス様の誕生をお祝いする予定だったのだが、とてもそんなことは言えなかった。うちは祖父の代からクリスチャン家系で、クリスマスはイブから家族で教会に行ってイエス様の誕生をお祝いするのが恒例だった。小学校低学年の頃は教会学校のクリスマスに友達をよく誘った。中でも隆と明は、中学までずっと一緒に仲良しだった。

隆（小3）           ケーキやお菓子、食べれるんだって。お母さん、行っていい？

隆母                 洋君ママに聞いてみてからね。洋君のお母さん、どんな事するんです？  
洋母                 イエス・キリストの誕生をお祝いするんです。教会の中をキャンドルできれいに飾り付けて、賛美歌を歌ったり、牧師さんのお話を聞いたり、プレゼント交換をしたり…。ゲームや劇なんかもやるんですよ。

隆母                 へえ〜、おもしろそうね。行ってみようか？

隆                    やったー！

ナレーション       それで二人とも教会に興味を持ってくれて、クリスマスの他、イースターや夏のキャンプなんかにも参加したりしてた。でも小学校高学年になると皆来なくなった。一番楽しいクリスマスですらも…。

洋（小5）           よ、隆、明、今年もクリスマス来る？

隆（ㇿ）            これから、ためたお年玉でゲーム買うから行かない。

洋                   隆はダメか…。明は？

明（ㇿ）            僕もダメ。その時間、家でテレビのスペシャル見るんだ。

ナレーション       中学時代になると、状況はさらに悪くなった。

隆                   明、洋、今年は俺ん家でクリスマスパーティーするぞ！クラスの女子も呼んだし、二人とも来いよな！

洋                   いや、僕は家族と教会に行くって決まってるから。

隆                   は？お前まだ教会なんか行ってるのか？

明                   つまんねーじゃん、あんなとこ。

洋                   そう言われても毎週行ってるし、生活の一部なんだよ。

隆 楽しい話になると、いつつも決まってノリが悪いな一洋は。珍しく運動部のやつらも来るんだぞ。

明 女子もだぞ～～。

洋 …ごめん。

隆 んじゃもういいよ！ 俺らでパーっとやろうぜ、明！

ナレーション 初詣にも誘われたけど、断ったら完全に呆れたらしく、以来二人とは疎遠になってしまった。その後、高校も別々になったから今は彼らとは完全に切れた状態。この経験から高校生活は勉強と共に、部活動にも打ち込んだ。自分なりに、友達は大事にしようと思ったのだ。もちろん部活は、日曜が休みの運動部を選んだ。チームは弱かったけど、充実した3年間を過ごし、地元の国立大学に現役で合格した。

そんな過去の経験を経て、今の話になるんだけど、あの時の隆と明のことを思い出すと、栄子の反応もなんとなく予想できる。たぶん、こんなやりとりになるだろう…。

音楽 (ブリッジ)

洋 実は僕、クリスチャンなんだ。

栄子 ふーん、そうなんだ。意外…でもないか。

洋 だからクリスマスイブは一緒に教会へ行こう！

栄子 は?! 何言ってるの洋君?!

洋 イエス様の誕生をお祝いしようよ！

栄子 えっなに?! 宗教?! 壺でも買わせる気?!

洋 そんなんじゃないくて、ただ神様に感謝と祝福を…

栄子 マジキモいんですけど！ 洋君、ここまでにしよ。もう連絡してこないで!!

音楽 (ブリッジ)

洋 (モノログ) こうなるだろうなあ、たぶん。いや、絶対こうなる。どうしよ？

ナレーション 思い余った僕は、次の日曜日、教会の牧師先生に相談してみた。

洋 彼女をクリスマスをきっかけに教会に呼びたいんですけど。

牧師 いいじゃないか。お名前は？

洋 栄子です。僕と誕生日が一緒で…。

牧師 そうか。そりゃよかった。ところで、その栄子さんは教会に興味ある？

洋 いえ全然。「クリスマスは駅前のイルミ見てディナーを食べたい」と言っ  
てます。

牧師 なるほど。ごくフツーのお嬢さんだね。呼んだら来てもらえそう？

洋 無理だと思います。だから相談に来たんです。

牧師 それもそうか。で、君はどうして無理だと思うんだい？

洋 小学校の友達がそうだったから。彼女もこないだの話を聞く限り同じだ  
と思います。

牧師 そうかもしれないね。でもクリスマスキャンドルとかケーキとか、女性の  
喜ぶ線で誘うこともできると思うよ。

洋 子供じゃないんですから…。なんか二人でムードあるところ行きたいみ  
たいです。

牧師 君はそっちには興味ないの？

洋 あんまりないですね。全くないと言えば嘘になるけど…。

牧師 そういえば君は小さい頃から休むことなく教会に通っているね。他の子  
は結構途中から来なくなったり、また来るようになってその間抜けて  
た時期があったりするんだけど。

洋 あ、そうですか。僕って、割とまじめなほうなんですかね。

牧師 ”割とまじめ”なんてもんじゃない、希少価値だよ。神様のお恵みだね。

洋 小さい頃は、ただ一緒に教会で遊んだりテレビを見たりするのが楽しく  
て。でも小学校6年の時に祖父が亡くなってからですかね。あの時、自分  
の周りで初めて人が死ぬってことを経験したんです。祖父にはいろいろ  
かわいがってもらったんで、なんか無性に悲しくて、「もうおじいちゃん  
には会えないのかな。どうしたら会えるのかな」って考えたんです。その  
時、牧師先生が、“永遠の命”の話をしてくれた。よくは分からなかったけ  
ど、教会から離れないでいれば、いつか分かる時が来るかもって…。あれ  
から自分の意志で通ってるんです。

牧師 なるほど、教会に来る積極的な意味を自分なりに見つけたんだね。それで  
も人間は誘惑に負けたりする事がいっぱいあるよ。

洋 先生もですか?!

牧師 そうさ！ 私も人間だからね。牧師といえども、神様の前では罪を赦され  
た人間の一人に過ぎないんだよ、洋君。

洋 なるほど…。なんか…少しラクになりました。

牧師 そうかい。そりゃよかった。

洋 でも先生、僕の場合、もう一つ、教会に続けて来た理由があるんです。

牧師 ほう？ なんだい、それは？

洋 ゴスペル「アメイジンググレイス」の歌詞ですよ。あの、♪「驚くばかり

の恵みなりき。この身の汚れを知れる我に」っていうの。

牧師 ほう。君は何か心に責められる悪いことでもしたのかい？

洋 目立つことはしてませんよ！ 祖父の病室のラジカセから流れてたんです。お見舞いに行くと、病室を出るまでずっと聴いてて、意味も教えてもらいました。

牧師 それはいい経験だったね。あの歌は、ジョン・ニュートンという元奴隷船船長でのちに牧師になった人の、深い深い悔恨の思いから作られた歌詞だからね。

洋 祖父を見送る時、教会で流れた音楽も「アメイジンググレイス」でした。それから初めて自分と神様の関係について考えたんです。なんか、「永遠の命」と、神様の「アメイジンググレイス＝驚くばかりの恵み」には、大事な関係があるような気がして…。僕が教会に通う理由はそれなんです。

牧師 なるほど。それで君が教会を離れなかった謎が解けたよ。それはとても大切な事だと思う。だから、栄子さんを教会に誘うときに今の話を素直にしてみたらいいんじゃない？

洋 え？ いきなり全部…ですか?!

牧師 全部じゃないよ。「僕にとって大切な時間を、教会で君にも一緒に過ごしてほしい」って言えば、少なくとも君が想像してるような頭からの拒絶はされないんじゃないかな。

洋 …そう…でしょうか？ だと…いいんだけど。

牧師 大丈夫、あとは神様が最善に導いてくださるよ。

ナレーション それまでは、ひねりにひねった変化球でも駄目だろうと思ってたけど、牧師先生に正直に話して、先生の力強いアドバイスを聞いているうち、なんだか直球でも行けそうな気がしてきた。  
それから数日して…。

効果音 (電話着信音。受話器を取る)

栄子 (フィルター音) もしもし、あ、洋君？

洋 あ、栄子！

栄子 (フィルター音) あのさあ、レストランの予約できたよー。

洋 あー、その事なんだけど…。

栄子 (フィルター音) なにー？ 別の店がよかった？ まだ変更きくよ。

洋 実はクリスマスには毎年行くところがあるんだよね。

栄子 (フィルター音) そうなんだ。どこ行くの？

洋 …教会。  
栄子 (フィルター音) 教会って、あの教会？ 「アーメン」の？ ふーん？ 何やるの？  
洋 クリスマスの感謝とお祝い。  
栄子 (フィルター音) か、感謝？ 誰が？ 何を？…よく分かんないよ。  
洋 イエス・キリストの誕生をお祝いするんだよ。賛美歌、歌ったりして。  
栄子 (フィルター音) えー？ サンタがプレゼントくれるんじゃないの？  
洋 サンタはいないよ。ケーキはあるけど。  
栄子 (フィルター音) へーそうなんだ。洋君、毎年行ってるんだ…。  
洋 うん。  
栄子 (フィルター音) そっかぁ、楽しいの？  
洋 楽しいというか、うれしい、かな。  
栄子 (フィルター音) うれしい…んだ。  
洋 僕たちは誕生日が一緒だから、ほら、なんとなく分かるだろ？  
栄子 (フィルター音) なにそれ？ それは誕生日関係ないっしょ。それにキリストは誕生日違うし。  
洋 例えが悪かった…。神が人間として生まれてくださった事に感謝してるんだよ。  
栄子 (フィルター音) ま、誕生祝って楽しいから、相手がキリスト様でもお祝いするのは分かるけど、感謝って分かんないなー。  
洋 僕もうまくは説明できない。で、ディナーは予定どおり一緒にするけど、その前に一緒に教会行かない？ 牧師さんとか、うまく説明してくれるし。  
栄子 (フィルター音) え、私も？ お坊さんの修行みたく部外者禁止なんじゃないの？  
洋 誰でも入れるよ！  
栄子 (フィルター音) そうなの？ だったらちょっとだけなら。  
洋 えっいいの?!  
栄子 (フィルター音) 誘ったの洋君でしょ！  
洋 そ、そうだけど、まさかオーケーもらえと思わなかったから…。  
栄子 (フィルター音) 普通に誘われただけなら断ってたけど、ちょっと気になっちゃって。  
洋 何が？  
栄子 (フィルター音) 人の誕生日をお祝いするのが「うれしい」なんて初めて聞いたし、しかもそれが「感謝」だなんて。洋君が何考えてんのか、もう少し詳しく知りたくなったの。

洋                    そっか。とにかくよかった！　じゃあ当日はよろしく  
栄子                   (フィルター音) はいはい。レストランの予約も変更するから時間教えて  
                          ね。  
洋                    分かった。それじゃ！  
栄子                   (フィルター音) じゃあまた。  
洋                    あ、最後に…。  
栄子                   (フィルター音) え、何？  
洋                    ありがとう  
栄子                   (フィルター音) うん！

ナレーション       これが、今年のクリスマスの出来事だ。ほんと、”案ずるより産むがやす  
                          し”って、このことなんだ。当日は、栄子の質問攻めに会うだろうと思  
                          うと、ちょっぴり怖いけど、とにかく、大事な一步を踏み出せた。大丈夫、  
                          あとは神様が最善に導いてくださる。そう、クリスマスは、僕にとって、  
                          新しい二人の旅立ちの第一歩なんだ――。

《完》